

科目名	美術教育法 I						
授業コード	1640	授業科目名	美術教育法 I			担当者	三澤一実教授
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（Web提出可 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

造形美術教育の実践者として身に付けるべき知識や経験、資質は、広範囲であり多種多様である。また、それらの基礎として子ども達の造形活動をさまざまな視点から観察する姿勢と、子ども達の作品の中にある優れた造形性や教育的意義を発見できる視点を持つことがまず重要である。子どものどこにどのような光を当てればよいのか、そこからどのような教育的な展望を持つことができるのかという問題は、造形美術教育の入門でもあり、永遠のテーマでもある。ここでは、現在の具体的な実践事例を含む造形美術教育の諸相を概括し、その基本理念の考察へと学習を進め、造形美術教育者としての視点育成を目的とする。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

身近な幼児・児童（3歳～10歳）の年齢の違う描画作品2点を取り上げ、造形美術教育の視点から解説すること。実際にその子どもが描いているところを観察するほうが望ましいが、雑誌や各種教科書などに掲載されているものでもよい。作品のコピーを添付し、子どもの年齢や性別、作品の出典などを明示すること。

○通信授業課題 2

昨今の初等教育における教育問題をひとつ取り上げ、ハーバード・リードの教育理念や造形表現における発達段階、小学校学習指導要領などと対比し、造形美術教育の視点から論評すること。

新聞、雑誌、WEBサイトなどを閲覧し、注目すべき教育問題を取り上げること。その情報の出典を明示すること。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書『美術教育資料研究』第I章と第II章、同じく教科書『美術の授業のつくりかた』第I章を中心として学習するとともに、教育問題についての情報を集め考察し、造形美術教育者としての視点を育成する。

- ・『美術教育資料研究』第I章 美術教育法の目的と意義
- ・『美術教育資料研究』第II章 子どもの造形表現
- ・『美術の授業のつくりかた』第I章 美術科の特徴と今日的課題
- ・『小学校学習指導要領解説 図画工作編』／図画工作科の考え方についての理解
- ・『中学校学習指導要領解説 美術編』／美術科の考え方についての理解
- ・情報収集／新聞、雑誌、WEBサイトなどを閲覧し、昨今の教育問題についての見識を広める

【成績評価の方法】

○科目試験

上記授業内容から出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

教職課程（中学、高校1種 [美術]）に登録していること。

○備考

なし

【教材等】

○教科書

大坪圭輔『美術教育資料研究』（武蔵野美術大学出版局 2014年）
 三澤一実編者『美術の授業のつくりかた』（武蔵野美術大学出版局 2020年、2023年第2版）
 文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』（日本文教出版 2018年）
 文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』（日本文教出版 2018年）
 ※各指導要領解説は文部科学省ホームページよりダウンロード可

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2023 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2023 年）

【その他】

○参考図書

ハーバード・リード『芸術による教育』（フィルムアート社 2001 年）

大坪圭輔編『求められる美術教育』（武蔵野美術大学出版局 2020 年）

科目名	美術教育法 II						
授業コード	1650	授業科目名	美術教育法 II			担当者	大坪圭輔教授、中村美知枝講師、徳山高志講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T1、S1)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

造形美術教育は子どもの成長の様相を基に行われる。特に「美術教育法 I」で学んだ造形表現における子どもの発達については、造形美術教育実践者の基礎的な知識として重要である。ここではそのような発達に対応した指導の実践事例として、チゼックスクールと自由画教育運動を取り上げる。また、中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領の内容について学習し、それらの考え方と比較検討する。これらの学習を通して、中等教育段階での造形美術教育の構造を明らかにし、中でも学習指導要領が重視する鑑賞領域の指導を模擬授業の形で実施し、実践的に学習することを目的とする。

【課題の概要】

○ 通信授業課題 ※ 面接授業で提出

「『美術教育資料研究』第Ⅲ章第 4 節に掲載のチゼック問答集を読み、現在の造形美術関係教科等と比較考察し論述すること。」

面接授業ではこれらの考察を中心として講義を進める。

大学指定のレポート用紙を用い返信可能な状態で持参、提出すること。

○ 面接授業課題

「中学校および高等学校における鑑賞題材を設定し、研究発表を行うこと。」

講義の中で鑑賞題材の研究発表を行い、相互に検討をする。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

通信授業 → 面接授業

○通信授業 ※ 面接授業で提出

教科書『美術教育資料研究』第Ⅲ章第 4 節に掲載のチゼック問答集を精読し、各質問に対するチゼックの答えについて、賛同できるもの、疑問に思うものなどに分類し、その中でもとくに重要と考えるものについて、現在の造形美術関係教科等と比較し、自身の考察を加えるようにする。

・ 『美術教育資料研究』第Ⅲ章第 4 節 チゼックスクール

○面接授業

チゼックスクールの実践と自由画教育運動を比較するとともに、近現代の造形美術教育史を概観する。

また中学校、高等学校の学習指導要領についての理解を深め、中等教育段階における授業題材開発の視点を育成する。

第 1 日 チゼックスクールの実践についての考察と日本美術教育史概説

第 2 日 自由画教育運動と中学校、高等学校学習指導要領

第 3 日 鑑賞題材の開発と研究発表

【成績評価の方法】

通信授業課題及び面接授業課題を基に評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

教職課程（中学、高校 1 種 [美術] ）に登録していること。

「美術教育法 I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備 考

なし

【教材等】

○教科書

大坪圭輔『美術教育資料研究』（武蔵野美術大学出版局 2014年）

文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』（日本文教出版 2018年）

文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』（日本文教出版 2017年）

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』（教育図書 2019年）

※各指導要領解説は文部科学省ホームページよりダウンロード可

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2023年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2023年）

* スターリング時にセット販売

・文部科学省検定済小学校教科書

『ずがこうさく1・2上』『ずがこうさく1・2下』『図画工作3・4上』『図画工作3・4下』『図画工作5・6上』『図画工作5・6下』（開隆堂出版）

・文部科学省検定済中学校教科書

『美術1』『美術2・3』（開隆堂出版）

・文部科学省検定済高等学校教科書

『高校生の美術1』『高校生の美術2』『高校生の美術3』『工芸Ⅰ』『工芸Ⅱ』（日本文教出版）

【その他】

○参考図書

大坪圭輔編『求められる美術教育』（武蔵野美術大学出版局 2020年）

三澤一実監修『美術の授業のつくりかた』（武蔵野美術大学出版局 2020年）

科目名	美術教育法 III						
授業コード	1660	授業科目名	美術教育法 III			担当者	大坪圭輔教授、中村美知枝講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	3~4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

教育活動の理念やシステムは時代の思潮によって変革され、変容していく。教育実践者はその改革が在るべき姿として正しいものといえるのか、その目指すところは未来の理想となり得るものかを絶えず検証する姿勢を持たねばならない。また造形美術教育はその性格や内容から、社会思潮を積極的に受け止め、時代に対応した教育の意義や価値を検証する必要がある。そのような研究は教育史論をはじめとして、実践論、教育哲学論、造形芸術論などを踏まえた学際的な性格を持つものである。ここでは障害者の造形美術教育にまで視野を広げ、今日的な課題を中心として、研究的姿勢を身に付けることを目的とする。

【課題の概要】

○ 通信授業課題 1

「身近な中学生の作品 2 点を取り上げ、造形美術教育の視点から解説すること」

実際にその中学生が描いているところを観察するほうが望ましいが、雑誌や各種教科書などに掲載されているものでもよい。また、作品は平面でも立体でもよい。

作品のコピーを添付し、作者の学年や性別、素材や技法、出典などを明示すること。

○ 通信授業課題 2

教科書『美術教育資料研究』第IV章及び『美術の授業のつくりかた』の中から、今日的課題として重要な内容をひとつ選び、その内容について自分の意見や考えを根拠を示し述べること。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書『美術教育資料研究』第IV章及び『美術の授業のつくりかた』を精読し、自身の教育観を広げられるようにする。また、現在の教育改革についても情報を集め、考察を深めて行くようにする。

- ・『美術教育資料研究』第IV章 現代美術教育の諸相
- ・『美術の授業のつくりかた』

【成績評価の方法】

◎ 科目試験

上記授業内容から出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～（但し、別表第4での登録の場合は2年次～履修可）

○履修条件

教職課程（中学、高校 1 種 [美術]）に登録していること。

「美術教育法 I・II」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備 考

なし

【教材等】

○教科書

大坪圭輔『美術教育資料研究』（武蔵野美術大学出版局 2014 年）

三澤一実監修『美術の授業のつくりかた』（武蔵野美術大学出版局 2020 年）

文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』（日本文教出版 2017 年）

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』（教育図書 2019 年）

※各指導要領解説は文部科学省ホームページよりダウンロード可

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2023 年度』（武蔵野美術大造形学部学通信教育課程 2023 年）

* 「美術教育法Ⅱ」のスクーリング時にセット販売

・文部科学省検定小学校教科書

『ずがこうさく 1・2 上』 『ずがこうさく 1・2 下』 『図画工作 3.4 上』 『図画工作 3・4 下』 『図画工作 5・6 上』 『図画工作 5・6 下』（開隆堂出版）

・文部科学省検定中学校教科書

『美術 1』 『美術 2・3』（開隆堂出版）

・文部科学省検定高等学校教科書

『高校生の美術1』 『高校生の美術2』 『高校生の美術3』 『工芸Ⅰ』 『工芸Ⅱ』（日本文教出版）

【その他】

○参考図書

大坪圭輔編 『求められる美術教育』（武蔵野美術大学出版局 2020 年）

科目名	美術教育法 IV						
授業コード	1670	授業科目名	美術教育法 IV			担当者	大坪圭輔教授、中村美知枝講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T1、S1)	学年	3～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

「開かれた学校」のことが意味するものは、情報公開や地域、保護者、生徒などの学校経営参加だけではなく、教育活動そのものを学外にまで広げ、社会や地域の教育力を活用することにある。芸術関係教科は、いち早く学外の教育活動との連携を模索してきている。ここではまず、造形美術教育に関する学外の教育活動についての理解を深め、教科学習との理想的な関係性を考察する。また、造形美術教育の歴史を概観し、今日の造形美術教育の様相や将来のあるべき姿について研究を深めることを目的とする。

【課題の概要】

○通信授業課題 ※ 面接授業で提出

「学校外での造形美術教育の事例をひとつ取り上げ、美術教科と学校外の造形美術教育の関わりや、将来像について論述すること」

面接授業ではこれらの考察を中心として講義を進める。

大学指定のレポート用紙を用いて返信可能な状態で持参、提出すること。

○面接授業課題

中学校及び高等学校における学校間連携、地域連携、美術館等との連携を考えた授業計画案もしくは学校行事、特別活動等との連携を考えた指導計画案の作成を基に、中学校美術科、高等学校芸術科美術の将来像を考察し、検討する。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

通信授業 → 面接授業

○通信授業

教科書『美術教育資料研究』及び『美術の授業のつくりかた』を総覧するとともに、美術館の Web サイトなどを閲覧し、美術館教育など学校外での美術教育の事例について情報を集めるなどして、学校教育外の造形美術教育の現状について考察する。

○面接授業

現在の造形美術教育の状況を歴史的視点などから包括的に考察し、中学校及び高等学校学習指導要領についての理解を深め、中等教育段階での造形美術教育の意義や実際についての研究を進めることができるようにする。

第 1 日 学外での造形美術教育（通信課題発表を中心として）／日本の美術の重視

第 2 日 日本美術教育史／中学校及び高等学校学習指導要領（事例と年間指導計画、学校種による違いなど）

第 3 日 学外連携をキーワードとする題材開発と発表、検討

【成績評価の方法】

通信授業課題及び面接授業課題を基に評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～（但し、別表第4での登録の場合は2年次～履修可）

○履修条件

教職課程（中学、高校1種〔美術〕）に登録していること。

旧課程登録者は、別表第4（中学、高校1種〔美術〕）に登録していること。

「美術教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備 考

なし

【教材等】

○教科書

大坪圭輔『美術教育資料研究』（武蔵野美術大学出版局 2014年）

三澤一実監修『美術の授業のつくりかた』（武蔵野美術大学出版局 2014年）

文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』（日本文教出版 2017年）

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』（教育図書 2019年）

※各指導要領解説は文部科学省ホームページよりダウンロード可

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2023年度』（武蔵野美術大造形学部学通信教育課程 2023年）

【その他】

○参考図書

大坪圭輔編『求められる美術教育』（武蔵野美術大学出版局 2020年）

文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』（日本文教出版 2017年）

科目名	工芸教育法 I						
授業コード	1680	授業科目名	工芸教育法 I			担当者	大坪圭輔教授
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業(Web提出可 科目試験あり)						

【授業の概要と目標】

人としての身体機能の低下は、多方面から指摘されている。その中で「手仕事」や「もの作り」の教育についての再評価の動きが強まっている。手工教育として明治期に導入された日本の工芸教育は、スロイドシステムに大きな影響を受けている。またその教科性から、手工教育は国策とのつながりも強い。ここでは手工教育の具体的な目的や内容を明らかにすることによって、現在の工芸教育の位置付けを考察する。また、構成教育や国民学校での実践などへも視野を広げ、「手仕事」の持つ教育的な意義を考え、工芸教育の理念を構築できるようにする。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

幼稚園児、もしくは小学校児童の異年齢の工作作品 2 点を取り上げ、工芸教育の視点から解説する。

実際にその子どもが制作しているところを観察するほうが望ましいが、雑誌や各種教科書、WEB サイトなどに掲載されているものでもよい。作品のコピーを添付し、子どもの年齢や性別、出典などを明示すること。

○通信授業課題 2

教科書『工芸の教育』第 3 章手工教育の変遷・第 2 節手工教育のはじまりとしての「恩物」に示されている「フレーベル恩物」について調べ、その意義と現代の知育玩具等とを比較考察する。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書『工芸の教育』「第 3 章手工教育の変遷」の中から、下に示すような手工教育、工芸教育に関する事例を取り上げて学修する。また、小学校図画工作科における子どもの発達の様相及び、工作指導について理解を深め、上級学校での工芸教育の理念や目的について考察する。

- ・『工芸の教育』「第 3 章手工教育の変遷」／恩物、ネース講習、構成教育、国民学校令
- ・『小学校学習指導要領解説 図画工作編』 工作領域の学習の目的と内容
- ・『中学校学習指導要領解説 美術編』 工芸領域の学習の目的と内容
- ・『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』 工芸科の学習の目的と内容

【成績評価の方法】

◎科目試験

上記授業内容から出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

教職課程（高校 1 種 [工芸]）に登録していること。

○備 考

なし

【教材等】

○教科書

大坪圭輔『工芸の教育』（武蔵野美術大学出版局 2017 年）

文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』（日本文教出版 2018 年）

文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』（日本文教出版 2018 年）

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』（教育図書 2019 年）

※各指導要領解説は文部科学省ホームページよりダウンロード可

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2023 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2023 年）

*スクーリング時にセット販売

文部科学省検定済 小学校教科書

『ずがこうさく1・2上』 『ずがこうさく1・2下』 『図画工作3・4上』 『図画工作3・4下』
『図画工作5・6上』 『図画工作5・6下』 (開隆堂出版)

【その他】

○参考書

大坪圭輔編『求められる美術教育』(武蔵野美術大学出版局 2020年)

三澤一実監修『美術の授業のつくりかた』(武蔵野美術大学出版局 2020年、2023年第2版)

大坪圭輔『美術教育資料研究』(武蔵野美術大学出版局 2014年)

科目名	工芸教育法 II						
授業コード	1690	授業科目名	工芸教育法 II			担当者	大坪圭輔教授
開講期間	通年	単位数	2単位(T1、S1)	学年	3～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

「手仕事」や「もの作り」の視点から工芸教育法の理念を考察した工芸教育法 I を基に、ここでは工芸教育の歴史及びデザイン・工芸史を概観し、現代の学校教育の中で工芸教育の位置付けを明らかにしていく。また現在の学習指導要領は地域の特色ある材料を生かすことや、伝統的な工芸についての理解や鑑賞、そこからの発想などを重視している。これらを踏まえて、身近な自然や環境との出会いを基にして始まる初等教育段階の造形美術教育と、中等教育段階の工芸領域における材料体験を重視した学習とのつながりを考察し、中学校美術科工芸領域及び高等学校芸術科工芸の具体的な題材について学習する。

【課題の概要】

○通信授業課題 面接授業で提出

身近な伝統工芸をひとつ取り上げ解説をし、それを基にした中学校美術科工芸領域あるいは、高等学校芸術科工芸の授業題材としての展開の可能性を論述する。

面接授業ではこれらの考察を中心として講義を進める。

所定の用紙を用い返信可能な状態で持参、提出すること。

取り上げた伝統工芸作品の写真などを添付すること。

授業題材としての展開ではその目的や方法などを具体的に想定する。

○面接授業課題

高等学校芸術科工芸 I における表現と鑑賞の授業計画案を作成し、その評価の観点を論述する。

学習指導要領の主旨を生かし、発展的な授業計画案を考える。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

通信授業 → 面接授業

○通信授業

地域の伝統工芸について調査するとともに、『中学校学習指導要領解説美術編』、『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』を中心として、現代の学校教育における工芸授業実践の目的や内容、方法などを考察し、題材展開の実際を学習する。

- ・『中学校学習指導要領解説 美術編』 工芸領域の学習の目的と内容、指導計画の作成と内容の取り扱い
- ・『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』 工芸科の学習の目的と内容、内容の取り扱い

○面接授業

工芸教育の意義を歴史的視点から考察し、中学校及び高等学校学習指導要領についての理解を深め、現代の中等教育における工芸の指導の実際を学習する。

第 1 日 伝統工芸の題材化（通信課題を中心として）／工芸学習の実際

第 2 日 デザイン史、工芸史、工芸教育史概説／中学美術工芸領域、高等学校学習指導要領芸術科工芸についての考察、／工芸技法の基礎理解

第 3 日 題材設定の作成、発表、講評

【成績評価の方法】

通信授業課題及び面接授業課題を基に評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～（但し、別表第4での登録の場合は2年次～履修可）

○履修条件

教職課程（高校 1 種 [工芸]）に登録していること。

「工芸教育法 I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考

なし

【教材等】

○教科書

大坪圭輔『工芸の教育』（武蔵野美術大学出版局 2017年）

文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』（日本文教出版 2018年）

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』（教育図書 2019年）

※各指導要領解説は文部科学省ホームページよりダウンロード可

○学習指導書

『造形文化科目/文化総合科目・教職に関する科目 2023年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2023年）

※ スクーリング時にセット販売

・文部科学省検定済中学校教科書

『美術1』『美術2・3』（開隆堂出版）

・文部科学省検定済高等学校教科書

『工芸I』『工芸II』（日本文教出版）

【その他】

○参考図書

大坪圭輔編『求められる美術教育』（武蔵野美術大学出版局 2020年）

大坪圭輔『美術教育資料研究』（武蔵野美術大学出版局 2014年）

三澤一実監修『美術の授業のつくりかた』（武蔵野美術大学出版局 2020年、2023年第2版）

科目名	教育原理 I						
授業コード	1600	授業科目名	教育原理 I			担当者	高橋陽一教授、田中千賀子講師、大多和雅絵講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（Web提出可 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、教育の理念、教育の歴史、教育の思想など広くについて、学ぶものである。ここで学んだ教育の理念・歴史・思想が、これからの教育実践や教育の社会的意義を深く考えていくための前提となる。教育をめぐって、子どもと大人、学校と家庭と社会、教育学の諸概念を理解して、さらに、古代から近代にいたる教育の歴史と思想を実践の前提となる教養として獲得することが目標である。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

「子どもにとっての教育」と題して、教科書を理解して、関心のある子どもに関するテーマを論じる課題。

○通信授業課題 2

「歴史からみえる教育の機能と理念」と題して、教科書を理解して、教育の歴史を考える課題。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書の第 1 部（第 1 章～第 15 章）を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。必要に応じて第 2 部も参照すること。

【成績評価の方法】

○科目試験

教科書第 1 部（第 1 章～第 15 章）の範囲より出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

教職課程に登録していること。

○備考

2年次の履修が望ましい。

【教材等】

○教科書

高橋陽一『新しい教育通義 増補改訂版』（武蔵野美術大学出版局 2018年、2023年増補改訂版）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2023年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2023年）

【その他】

通信授業課題については『学習指導書』の説明を十分に理解して取りくむこと。

科目名	教師論						
授業コード	1590	授業科目名	教師論			担当者	高橋陽一教授、桑田直子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（Web提出可 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、教育職員免許法施行規則に定める「教職の意義に関する科目」であり、「教職の意義及び教員の役割」、「教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）」及び「進路選択に資する各種機会の提供等」を内容としている。具体的には教員の役割や歴史、そして特に美術、工芸、情報の教員の職務とその意義について理解を深めることが期待される。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

「教員生活や教員社会の特徴について、経験豊かな教員あるいは恩師の教員からヒアリングを行い、それをもとに自分なりの理想的教員像を論じなさい。」

教科書を参考に論述すること。

○通信授業課題 2

「子どもの個性を引き出し、伸ばすということについて、美術・工芸・情報科の教員の役割を論じなさい。」

教科書を参考に論述すること。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

『新しい教師論』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。

【成績評価の方法】

◎科目試験

教科書全体の範囲より出題する。

教科書を熟読して受験すること。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

教職課程に登録していること。

○備考

2年次の履修が望ましい。

【教材等】

○教科書

高橋陽一編『チーム学校の教師論』（武蔵野美術大学出版局 2021年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2023年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2023年）

【その他】

なし

科目名	教育原理 II						
授業コード	1610	授業科目名	教育原理 II			担当者	高橋陽一教授、田中千賀子講師、大多和雅絵講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（Web提出可 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、教育をめぐる社会の在り方や学校教育制度などについて、学ぶものである。「教育原理 I」で学んだ教育の理念や歴史などを踏まえて、教育が現在社会でいかに機能し、どのような問題をもち、どのように改革されるべきかを考える。教育職員免許法施行規則の定めるとおり教育に関する社会的、制度的、経営的事項を学び、さらに学校と地域の連携や学校安全という課題も併せて理解するための授業である。とりわけ、現代の日本の学校教育制度と教育行政の在り方など、私たちの教育の在り方を展望するための視野を確立することを目的としたい。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

教育基本法における教育の理念について要約と考察をおこなう課題。教科書を熟読し、現行の教育基本法の全体的な方針、法令上の位置づけについて概要をまとめ、関心のある条文の一つを選んで要約すること。

○通信授業課題 2

義務教育の制度について要約と考察をおこなう課題。教科書を熟読し、義務教育の根拠となる教育制度について概要をまとめ、小学校や中学校などの機能や役割について要約すること。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書の第 2 部を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。

【成績評価の方法】

◎科目試験

教科書第 2 部各章の範囲より出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

教職課程に登録していること。

「教育原理 I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考

なし

【教材等】

○教科書

高橋陽一『新しい教育通義 増補改訂版』（武蔵野美術大学出版局 2018年、2023年増補改訂版）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2023年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2023年）

【その他】

なし

科目名	教育心理学						
授業コード	1620	授業科目名	教育心理学			担当者	桂瑠以講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（Web提出可 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

教育心理学の知見に基づく教授法ならびに学習指導の原理や仕組みに関する基礎的事項の理解、把握を目標とする。なかでも特に、近年の学校教育で重視されている学習者主体の指導・教授について、自主性や主体性を育てる指導・教授に必要な条件、それらが損なわれる際に引き起こされる問題などの観点から考察する。教科書では、1. 様々な学習の仕組みや原理、2. 「やる気」と呼ばれる心理状態、3. 教授方法・学習指導の形態、4. 教育評価を中心に、教師による教授と生徒の学習に関する概観を把握する。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

自己や他者の経験をふまえ、実際の学習活動において「やる気」が高められた事例、逆に「やる気」が低下させられた事例を分析研究する課題。

○通信授業課題 2

教科書をふまえて、教育心理学的知見から、学習動機を高め、持続させる教授・学習指導法を考察する課題。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書の第3章、第4章、第6章、第7章を使用する。課題に取り組む前に、各章を熟読すること。

第3章 ほめることの大切さ

古典的条件づけによる学習／道具的条件づけによる学習／観察による学習／自己強化による学習

第4章 「やる気」を考える

期待－価値モデル／統制感／原因の考え方／内発的動機づけ

第6章 どのように教えるか

学習指導の形態／発見学習／受容学習／グループ学習と個別学習の具体例／適性処遇交互作用

第7章 児童・生徒をどう評価するか

教育の成果を評価する／評価のための情報を得る方法

【成績評価の方法】

◎科目試験

教科書の該当部分より論述形式の問題を出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

教職課程に登録していること。

○備考

2年次の履修が望ましい。

【教材等】

○教科書

鎌原雅彦・竹綱誠一郎『やさしい教育心理学』（有斐閣 1999年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2023年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2023年）

【その他】

なし

科目名	特別支援教育						
授業コード	1900	授業科目名	特別支援教育			担当者	高橋陽一教授、杉山貴洋講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（Web提出可 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

特別支援教育全般の理念と理論について教科書を活用して理解する。さらに実践力を養うために、美術教員として特別な教育的ニーズをもつ小学校児童や中学校・高等学校生徒を念頭において、特別支援学校、特別支援学級及び通常学級における全般的な実践課題を理解し、子どもの理解、教育課程の構想と指導・支援の基本を学ぶ。

目標としては、（1）発達障害を含む特別な支援を必要とする子どもの障害の特性と心理の発達とインクルーシブ教育を含む特別支援教育の理解、（2）発達障害を含む特別な支援を必要とする子どもに対する教育課程や支援の方法、（3）障害以外の特別な教育的ニーズのある子どもの学習上及び生活上の困難への対応を理解して、特別支援教育の理解と実践力を獲得する。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

「インクルーシブ教育とは何か」

まず教科書第 1 章を熟読し、さらに第 2 章と第 3 章を踏まえたうえで、今日の学校と社会の課題からインクルーシブ教育とは何かを整理すること。この動向は日々変化しているので、自己の見聞・体験や他の書籍・報道なども引用すること。

○通信授業課題 2

「障害や多様なニーズに対応する教育とは何か」

まず教科書第 4 章以後を熟読して、様々な障害や障害以外の特別な教育的ニーズについて考え、学校でどのような配慮をするべきか教師としての立場で実践的に記すこと。この動向は日々変化しているので、自己の見聞・体験や他の書籍・報道なども引用すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書『特別支援教育とアート』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。

【成績評価の方法】

◎科目試験

教科書全体の範囲より出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

教職課程に登録していること。

○備考

なし

【教材等】

○教科書

高橋陽一・葉山登・杉山貴洋・川本雅子・田中千賀子『特別支援教育とアート』

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2023年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2023年）

【その他】

なし

科目名	道徳教育の理論と方法						
授業コード	1720	授業科目名	道徳教育の理論と方法			担当者	高橋陽一教授、亀澤朋恵講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（Web提出可 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、道徳に関する人間と社会の在り方を考え、学校における道徳教育の意味を探究するものである。道徳が社会の中で果たす意味を歴史と現代社会において検討し、それをもとに、学校教育において道徳教育とはいかにあるべきかを考える。「道徳」なるものが自明の前提ではなく、研究され、そして課題となるものとして深く考察する姿勢が望まれる。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

「道徳とは何であったか」

歴史上の事象でも、個人の体験でも、あるいは作品の中の世界でも、「道徳」が如何に語られ、それについてどう考えるかを教科書と学習指導書を踏まえて論じること。学校教育以外のテーマでよい。

○通信授業課題 2

「学校で道徳をどう教えるか」

中学校又は高等学校において、道徳をどう教えるかを考えるレポート。かならず授業の目的と時間配分、教材について明示すること。その他学習指導書で示された条件をふまえること。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書『道徳科教育講義』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。具体的な通信授業課題は学習指導書に説明しているので、十分に読んでほしい。

【成績評価の方法】

◎科目試験

教科書全体の範囲より出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

教職課程に登録していること。

○備考

3年次の履修が望ましい。

【教材等】

○教科書

高橋陽一・伊東毅『道徳科教育講義』（武蔵野美術大学出版局 2017年）

文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（教育出版 2017年）

※各指導要領解説は文部科学省ホームページよりダウンロード可

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2023年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2023年）

【その他】

通信授業課題については『学習指導書』の説明を十分に理解して取りくむこと。

科目名	総合的な学習の時間の指導法						
授業コード	1910	授業科目名	総合的な学習の時間の指導法			担当者	高橋陽一教授、川本雅子講師、田中千賀子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（Web提出可 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

総合的な学習の時間は、探求的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことで、子どもたちの課題探求能力やよりよく生きていくための資質・能力を育てるためのものである。美術教員を目指す学生がこの指導法を獲得して、さらにチーム学校で総合学習を牽引するためのアクティブ・ラーニングの効果的な手法であるワークショップの技法を修得することをテーマとする。

到達目標としては、（1）総合的な学習の時間の意義や学校教育における位置づけを理解して美術教員がチーム学校の一員として率先して担うべき志向を体得し、（2）総合的な学習の時間に関する学校としての全体計画、年間指導計画、単元指導案などを作成する能力を獲得して美術教員として言語活動や記録と表現を促進するワークショップ技法に熟練し、（3）生きる力としての思考力・判断力・表現力、課題探求能力や問題発見能力などを子どもたちが獲得するための指導と評価の考え方を理解して、子どもたち自身の記録と表現としての自己評価・ポートフォリオ評価や教師による学習状況の評価方法などの知識と技術を獲得する。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

「総合的な学習の時間の概要と可能性」

教科書をもとに、今日における総合的な学習の時間はどのようなものかを概説すること。その上で、自分自身の観点を含めて、総合的な学習の時間が子どもたちにどのような可能性を提供するかを論じること。

○通信授業課題 2

「総合的な学習の時間で取り組むテーマと計画」

自分自身の知識や関心をもとに、校種・学年などを仮想して、総合的な学習の時間に取り上げるべきテーマを設定すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書『総合学習とアート』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。

【成績評価の方法】

◎科目試験

教科書全体の範囲より出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

教職課程に登録していること。

○備考

なし

【教材等】

○教科書

高橋陽一・葉山登・杉山貴洋・川本雅子・田中千賀子・有福一昭『総合学習とアート』（武蔵野美術大学出版局 2019年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2023年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2023年）

【その他】

科目名	特別活動の理論と方法						
授業コード	1730	授業科目名	特別活動の理論と方法			担当者	橋本萌講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（Web提出可 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、「特別活動の指導法」（教育職員免許法施行規則）を内容としている。特別活動についての全般的な理解を深めると同時に、特別活動が抱える今日的課題を受講者の問題意識に沿いながら考察する。教科書では、「学級（ホームルーム）活動」「生徒会活動」「学校行事」のもつ問題点を個々に取りあげながら、特別活動という領域のもつ内容の広がりを多様に構想できるようになることを目標とする。その上で、教育の現状に対する自分なりの視点・視角をもつことができるようにする。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

教科書を踏まえて、「学級（ホームルーム）活動」「生徒会活動」「学校行事」について個々の現状を把握する。その上で、「批判」「分析」「提言」の三段階をもって考察し、「私のつくる特別活動」の構想を課題とする。

○通信授業課題 2

教科書を踏まえて、学校教育の抱える今日的課題（特別活動に関する）を自分なりにまとめる。その際に、自分固有の問題意識をもつことを条件とするが、「自主性と共同性」という視点からの考察が望ましい。

* 「問題意識」：自分がこだわっている考え方、価値観など。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

* 必ず「タイトル」を記載すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書『未来の教師と考える特別活動論』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。

第1章 特別活動とは何か

第2章 現行の学習指導要領と特別活動

第3章 戦前の教科外活動の変遷

第4章 戦後の特別活動の変遷

第5章 学級活動とは何か

第6章 朝の学活

第7章 学級の問題を話し合う

第8章 学級活動とアクティブラーニング

第9章 特別活動とキャリア教育

第10章 生徒会活動とは何か

第11章 学校行事とは何か

第12章 日の丸 君が代をめぐって

第13章 クラブ活動と部活動

第14章 諸外国の教科外活動

第15章 特別活動の現状と課題

【成績評価の方法】

◎科目試験

教科書全体の範囲より出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

教職課程に登録していること。

○備考

2年次の履修が望ましい。

【教材等】

○教科書

伊東毅『未来の教師と考える特別活動論』（武蔵野美術大学出版局 2022年）

文部科学省編『中学校学習指導要領解説 特別活動編』（東山書房 2017年）

文部科学省編『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』（東京書籍 2019年）

※各指導要領解説は文部科学省ホームページよりダウンロード可

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2023年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2023年）

【その他】

旧科目名：特別活動の研究

科目名	教育方法（ICT活用を含む）						
授業コード	1980	授業科目名	教育方法（ICT活用を含む）			担当者	三澤一実教授、岡田京子講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

教育計画は教育の理念や目標を具現化し、実践可能な授業としての形を作ることである。その場合、指導方法についての研究や、題材論、素材や用具についての知識、教育環境の整備など多岐に渡る視点が必要となってくる。ここでは、授業を成立させる要素についての理解を深め、美術教育法や工芸教育法、情報教育法などを通して構築した教育の理念を効果的に実践するための方法を研究する。具体的には学習指導案や年間指導計画表、週案の考え方を学習し、模擬授業へと発展させる。

ICT 活用については、授業内容の充実と深化を図ることを目的として、その意義と理論、授業と校務における活用、児童生徒の情報モラルの育成などを含めた内容を理解し、実践的な指導計画を作成する能力を獲得する。

【課題の概要】

○面接授業課題

「それぞれの履修科目に応じた学習指導案を作成し、模擬授業を行うこと。」

学習意欲こそが基本的な学力であるとする視点に立ち、各題材の導入部分を中心とした模擬授業を実施する。

○通信授業課題 返却用の封筒を同封すること

「生徒の主体性を生かした年間指導計画と、その中の一題材の学習指導案及びその題材で用いるワークシートを作成すること。学習内容の定着と深化を図ることを目的とするため、ICT活用を前提として、情報モラル育成を含む題材及びワークシートとすること。」

学習指導要領に基づいてICT 活用を前提とした授業計画を考える。

面接授業内で、本課題の解説を行うとともに、課題説明プリント、情報通信活用関係ウェブページ一覧、インターネットを活用したワークシート模式例及び課題用紙を配付する。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

* 年間指導計画、学習指導案、ワークシートを一括して提出すること。

【授業計画】

面接授業 → 通信授業

○面接授業

教育計画の意味や目的を理解し、その具体的な作成方法を学習する。またそれぞれの状況に応じた指導方法を研究し、指導力の育成を図る。

第1日 教育計画の考え方、各種指導案の研究、教育環境の設計

第2日 学習指導案の制作

第3日 模擬授業による討議、講評

○通信授業

面接授業での学習をもとに、武蔵野美術大学出版局刊『美術の授業のつくりかた』、各学習指導要領解説を中心として、学習意欲を引き出す主体的な学習活動を基本とした教育方法を研究する。

・『美術の授業のつくりかた』第2章・3章・4章 授業の組み立てと学習指導・教科経営・題材開発研究

・各学習指導要領解説

・文部科学省等の情報通信技術活用関連ウェブページ

【成績評価の方法】

面接授業課題及び通信授業課題を基に評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

教職課程に登録していること。

○備考

「美術教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「工芸教育法Ⅰ・Ⅱ」などの教育内容の理解が前提となるために、登録している免許に応じてこれらの科目を修得または同時に履修登録をすることが望ましい。

スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

○教科書

三澤一実編『美術の授業のつくりかた』（武蔵野美術大学出版局 2020年、2023年第2版）

（美術・工芸免許状登録者）文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』（日本文教出版 2018年）※

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』（教育図書 2019年）

（情報免許状登録者）文部科学省『高等学校学習指導要領解説 情報編』（開隆堂出版 2019年）

※各指導要領解説は文部科学省ホームページよりダウンロード可

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2023年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2023年）

※スクーリング時にセット販売

（美術・工芸免許状登録者）文部科学省検定済中学校教科書『美術1』『美術2・3』（開隆堂出版）

文部科学省検定済高等学校教科書『高校生の美術1』『高校生の美術2』『高校生の美術3』（日本文教出版）

文部科学省検定済高等学校教科書『工芸Ⅰ』『工芸Ⅱ』（日本文教出版）

【その他】

参考図書：大坪圭輔編『求められる美術教育』（武蔵野美術大学出版局 2020年）

国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校美術』

『同 高等学校芸術（美術）』『同 高等学校情報』（東洋館出版 2020年）

※実習校種・科目に応じて準備。

必ず閲覧するウェブサイト（教科書に準じる）

・文部科学省等の情報通信技術活用関連ウェブページ

○「教員のICT活用指導力チェックリスト」（平成30年6月改訂）https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416800.htm

○「教育の情報化に関する手引」https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html

○オンライン講座「校内研修シリーズ」<https://www.nits.go.jp/materials/intramural/theme.html#theme05-04>

○「各教科等の指導におけるICTの効果的な活用について」https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/mext_00915.html

○「小中高等学校におけるICTを活用した学習の取組事例」（令和2年5月）https://www.mext.go.jp/content/20200527-mxt_kouhou01-000004520_4.pdf

旧科目名：教育方法

科目名	生活指導の理論と方法						
授業コード	1740	授業科目名	生活指導の理論と方法			担当者	渡辺典子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（Web提出可 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、「生徒指導の理論及び方法」と「進路指導の理論及び方法」（教育職員免許法施行規則）を内容としている。指導の背後にある基本的な理論をふまえ、生活指導の歴史的・社会的意味について考察することを目標とする。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

「教員として子どもに関わる立場から、学級崩壊現象について論じなさい」
上記の課題について、教科書等を参考に論述すること。

○通信授業課題 2

「児童・生徒の主体性をどのようにのばすかについて述べなさい」
上記の課題について、教科書等を参考に論述すること。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書『これからの生活指導と進路指導』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。

- 第 1 章 学校教育における生活指導
- 第 2 章 学校教育における進路指導
- 第 3 章 生活指導とは何か
- 第 4 章 生活指導の方法
- 第 5 章 進路指導の歴史
- 第 6 章 進路指導の理論
- 第 7 章 キャリア教育の理念・実態・課題
- 第 8 章 不登校とサポート体制づくり
- 第 9 章 文部科学省のいじめ対策
- 第 10 章 いじめへの対応と学級活動・生徒会活動
- 第 11 章 ジェンダーと学校
- 第 12 章 多文化教育と学校
- 第 13 章 問題行動と生活指導
- 第 14 章 十八歳成人と主権者教育
- 第 15 章 懲戒と指導

【成績評価の方法】

◎科目試験

教科書全体の範囲より出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

教職課程に登録していること。

○備考

2年次の履修が望ましい。

【教材等】

○教科書

高橋陽一・伊東毅編『これからの生活指導と進路指導』（武蔵野美術大学出版局 2020 年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2023年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2023年）

【その他】

旧科目名：生活指導の研究

科目名	教育相談論						
授業コード	1750	授業科目名	教育相談論			担当者	伊東毅教授
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業(Web提出可 科目試験あり)						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、教育職員免許法施行規則上の「教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法」に相当するものである。教育相談やカウンセリングの理論・実践を、その歴史的経緯をおさえながら学ぶことを目的とする。教育相談やカウンセリングの成り立ち、及びこれらが立脚する基礎理論を学ぶことからはじめ、いじめ・不登校・非行などの諸問題にかかわる具体的な実践をも考察していく。

具体的な到達目標は、（1）学校における教育相談の意義と理論やこれに関わる心理学の基礎を理解し、（2）生徒の不応答や問題行動の意味を知るとともにそのシグナルを受けとめる方法を理解するとともにカウンセリングマインドの必要性と基礎的技法を理解し、（3）生徒や保護者に対する教育相談の目標の立て方や進め方を例示することができたり、諸問題に対する発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方や各機関との連携の意義や必要性を理解すること、である。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

「フロイトに基礎を置く精神分析療法とロジャーズに基礎を置くカウンセリングのそれぞれの特徴を指摘した上で、それらのメリットおよびデメリットについて論じなさい。」

上記の課題について、教科書等を参考に論述すること。

○通信授業課題 2

「いじめ・不登校・非行などの教育問題に対して、どのような教育相談の方法やシステムが有効か、これまでの文部科学省（含かつての文部省）の対策にも触れながら論じなさい。その際、議論を具体化するために、一つの教育問題に焦点を絞ってもよい。」

上記の課題について、教科書等を参考に論述すること。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書『新しい教育相談論』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。

- 第 1 章 教育相談とは何か
- 第 2 章 教育相談をめぐる学校教育政策の動向
- 第 3 章 教育心理学の基本
- 第 4 章 発達理論の基本
- 第 5 章 友人関係・社会性の発達
- 第 6 章 発達障害の理解と支援
- 第 7 章 カウンセリングの基本
- 第 8 章 心理療法の理解
- 第 9 章 いじめの実態と対策の動向
- 第 10 章 不登校の実態と対策の動向
- 第 11 章 非行少年の実態とその処遇
- 第 12 章 問題行動とカウンセリング
- 第 13 章 道徳教育と教育相談
- 第 14 章 多文化をめぐる対応
- 第 15 章 宗教と多文化をめぐる学校教育政策の動向

【成績評価の方法】

◎科目試験

教科書全体の範囲より出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

教職課程に登録していること。

○備考

2年次の履修が望ましい。

【教材等】

○教科書

高橋陽一・伊東毅編『新しい教育相談論』（武蔵野美術大学出版局 2016年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2023年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2023年）

【その他】

なし

科目名	教育実習 I						
授業コード	1770	授業科目名	教育実習 I			担当者	大坪圭輔教授、三澤一実教授、高橋陽一教授、伊東毅教授
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、中学校又は高等学校において行う教育実習である。教育実習は、実習校においてその学校の指導教諭の指示のもとで、観察実習、授業実習、研究授業等の形態で行われるものである。しかし、実習生は、その学校の生徒にとっては教師を目指している人、つまり「先生」としてみられるのであり、実習生の高い自覚と十分な研鑽が求められる。

なお教育実習は4年次に実施され、高等学校免許状のみ取得する場合は本授業のみの2週間であるが、中学校免許状を取得する場合は引き続き「教育実習II」と併せて3週間又は4週間の実習となる。

【課題の概要】

○面接授業課題

実習に当たっては、『教育実習日誌』に毎日の実習を記録し、指導教諭の点検を仰ぐ。この『日誌』が実習校を通じて大学に提出されることとなる。

【授業計画】

○面接授業

「教育実習I」のみの場合は2週間又は3週間、「教育実習II」と併せて行う場合は3週間又は4週間にわたる。日程や具体的な実習内容などは各実習校により異なる。

【成績評価の方法】

実習校より提出された評価をもとに、『教育実習日誌』などを勘案して採点する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4年次

○履修条件

教職課程に登録していること。

「教育実践の理論と方法」の第1回から第3回の事前指導をすべて受けた4年次の者に限る。

その他『教職課程ガイドブック』に示された教育実習受講資格を満たしていること。

○備考

なし

【教材等】

『教育実習日誌』（武蔵野美術大学通信教育課程）※「教育実践の理論と方法」第3回面接授業時に配付

【その他】

教育実習にあたっては多くの注意事項や手続きがあり、大学の指導を守り、必要な条件をみたまつ場合のみ実習を行うことができる。また実習校の選定や各種の調整など、学生の責任において行うことが多い。このため、月刊誌『武蔵美通信』などに掲載する情報を十分に読んで準備をする必要がある。

科目名	教育実習 II						
授業コード	1780	授業科目名	教育実習 II			担当者	大坪圭輔教授、三澤一実教授、高橋陽一教授、伊東毅教授
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、「教育実習 I」に引き続き、中学校又は高等学校において行う教育実習である。教育実習は 4 年次に実施され、高等学校免許状のみ取得する場合は「教育実習 I」のみの 2 週間又は 3 週間であるが、中学校免許状を取得する場合は引き続き「教育実習 II」と併せて 3 週間又は 4 週間の実習となる。

【課題の概要】

○面接授業課題

実習に当たっては、『教育実習日誌』に毎日の実習を記録し、指導教諭の点検を仰ぐ。この『日誌』が実習校を通じて大学に提出されることとなる。

【授業計画】

○面接授業

「教育実習 I」と「教育実習 II」と併せて 3 週間又は 4 週間となる。日程や具体的な実習内容などは各実習校により異なる。

【成績評価の方法】

実習校より提出された評価をもとに『教育実習日誌』などを勘案して採点する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4 年次

○履修条件

教職課程（別表第 1 の中学 1 種 [美術]）に登録していること。

「教育実践の理論と方法」第 1 回から第 3 回の事前指導をすべて受けた 4 年次の者に限る。

その他『教職課程ガイドブック』に示された教育実習受講資格を満たしていること。

○備考

なし

【教材等】

『教育実習日誌』（武蔵野美術大学通信教育課程）※「教育実践の理論と方法」第 3 回面接授業時に配付

【その他】

教育実習にあたっては多くの注意事項や手続きがあり、大学の指導を守り、必要な条件をみたまつ場合のみ実習を行うことができる。また実習校の選定や各種の調整など、学生の責任において行うことが多い。このため、月刊誌『武蔵美通信』などに掲載する情報を十分に読んで準備をする必要がある。

科目名	教育実践の理論と方法 教育実践の理論と方法(1) 教育実践の理論と方法(2)						
授業コード	下表参照	授業科目名	教育実践の理論と方法 教育実践の理論と方法(1) 教育実践の理論と方法(2)			担当者	大坪圭輔教授、三澤一実教授、高橋陽一教授、伊東毅教授
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、教育実習の事前事後指導である。教育実習を行うにあたっての基礎的な知識と心構え、実習校との各種手続を含む事務的な連絡などをオリエンテーション形式で行う。

【課題の概要】

○面接授業課題

第1回・第2回の面接授業を受けるに際して、月刊誌『武蔵美通信』別冊『スクーリング持参物』により告知して予めレポート課題を指定し、当日これを回収する。課題は、教育実習にあたっての準備や心構えなどに関するもので、テーマは適宜指示する。

【授業計画】

○面接授業

教職課程登録年次から4年次(教育実習受講年度)にかけて合計3回の授業すべてに順番に出席すること。

第1回 教職課程登録年次

教育実習の理念と実際、教育実習までの日程概要、美術・情報に関する視聴覚教材の上映、第1回小論文提出

第2回 3年次(教育実習前年度)

教育実習の事前学習の指導、教育実習についての視聴覚教材の上映、模擬授業の実施、教育実習までの各種手続の説明、第2回小論文提出

第3回 3年次(教育実習前年度)又は4年次(当該年度後期教育実習予定者)

教育実習の直前指導、美術・情報についての視聴覚教材の上映、模擬授業の実施、各種手続の説明
事後指導(4年次 通信の方法による)
教育実習終了報告書の提出

【成績評価の方法】

提出された小論文及び出席状況、教育実習終了報告書によって採点する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

*次頁(各年次の履修登録と面接授業の受講回)表参照

○履修条件

教職課程に登録していること。

○備考

次頁(各年次の履修登録と面接授業の受講回)表のとおり履修登録し、面接授業第1回～第3回に順番に1回ずつ出席すること。

後期に実習を行う場合は、面接授業第3回を実習年度で受講することができる。

教育実習後に本学指定様式の「教育実習終了報告書」を提出し、合格する事によって、単位修得となる。

スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

『教育実習日誌』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程)※ 第3回面接授業時に配付

【その他】

実習校の選定や各種の調整など、学生の責任において予め行うことが多い。このため、月刊誌『武蔵美通信』などに掲載する情報を十分に読んで準備をする必要がある。

旧科目名:教育実践の研究

<各年次の履修登録と面接授業の受講回>

年次	授業コード	履修登録科目	受講する面接授業
教職課程登録年次	2100	教育実践の理論と方法(1)	面接授業第1回(春期または夏期)
3年次(教育実習前年度)	2110	教育実践の理論と方法(2)	面接授業第2回(春期または夏期)
	1790	教育実践の理論と方法	面接授業第3回(夏期)
4年次(教育実習受講年度)	1790	教育実践の理論と方法	面接授業第3回(夏期) ※当該年度後期実習者のみ

科目名	教職実践演習（中・高）						
授業コード	2270	授業科目名	教職実践演習（中・高）			担当者	大坪圭輔教授、三澤一実教授、高橋陽一教授、伊東毅教授
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（Web提出可） 面接授業						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、教育実習を行った者が免許状を受ける前に学校教育全般と免許科目（中学校美術、高等学校美術・工芸・情報）にわたって、自分自身の教育実習を踏まえて教員としての能力の向上の課題を把握して、教育現場で指導力を発揮するための演習科目である。具体的には、オリエンテーションを受講し、通信課題のレポートを作成して合格し、面接授業では演習に参加して発表や討議を行って、教職課程の「総まとめ」「総仕上げ」を行う。

【課題の概要】

○オリエンテーション課題

指定された様式に基づいて「教育実習の概要」（A4判1枚）を当日に提出すること。

○通信授業課題

「教科教育以外の教育実習の反省」

上記の課題について、行った教育実習と教職課程の各科目の教科書を参考に論述すること。

○面接授業課題

「研究授業学習指導案」（実際に実施したもの）と「教科教育の教育実習の反省」

上記の課題については、行った教育実習と教職課程の各科目の教科書を参考に論述し、当日提出すること。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

教育実習 → オリエンテーション → 通信授業 → 面接授業

*教育実習、オリエンテーションは順不同

○オリエンテーション

この授業科目の目的や具体的な学習内容を説明する。各自から提出されたオリエンテーション課題により、討議や質疑応答なども行う

○通信授業

教育実習を終えて、学校教育全般についての学習の総まとめとして、通信課題に取り組み、教員として能力の向上のための自分自身の課題を明確にする。

○面接授業

教育実習を終えて、教科教育などの学習の総まとめとして、演習に参加して、教員として能力の向上のための自分自身の課題を明確にする。

- ・前提講義
- ・設定したテーマと各自の面接授業課題レポートに基づく発表と討議
- ・講評

【成績評価の方法】

面接授業の講評などを基に評価する。この授業科目は教育職員免許法施行規則の改正による新課程で追加となった授業科目として、厳正な成績評価が求められるもので、オリエンテーション提出物から面接授業講評にいたる情報のほか、毎年度の履修カルテ等の提出物、教育実習の状況等をふくめて担当教員全員の合議による評価を行う。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4年次

○履修条件

教職課程に登録していること。当該年度内に教育実習を行う予定であるか、前年度までに教育実習を終了していること。

「教育実習Ⅰ」（中学1種・高校1種）または「教育実習Ⅱ」（中学1種のみ）、「教育実践の理論と方法」の単位を修得しているか、同時に履修登録

していること。

○備 考

オリエンテーションを受け、さらに通信授業に合格したうえで、面接授業を受講する。必ず教育実習を終えてから通信授業課題に取り組むこと（日程等の都合上、「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」の単位が未修得である場合も通信授業課題の提出可能）。教育実習が中止となった場合は、オリエンテーションの受講はできない。

【教材等】

○教科書

『求められる美術教育』大坪圭輔編（武蔵野美術大学出版局 2020年）

『美術の授業のつくりかた』三澤一実監修（武蔵野美術大学出版局 2020年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2023年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2023年）

【その他】

平成24年度までに「教職総合演習」の単位修得をした者（旧課程適用者）はこの授業科目を履修する必要はないが、旧課程適用者でも平成24年度までに「教職総合演習」の単位修得ができなかった場合は、この授業科目の履修が必要となる。

科目名	介護等体験						
授業コード	1800	授業科目名	介護等体験			担当者	高橋陽一教授、田中千賀子講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、介護等体験特例法によって小中学校の免許状授与にあたって義務づけられた介護などの体験とその事前事後指導である。介護等体験では、社会福祉施設や特別支援学校において合計7日間の介護、介助、交流などを行う。この授業では、介護等体験をするにあたっての準備を整え、7日間を自分にとっても高齢者・障害者にとっても有意義に過ごしていくものである。また、介護等体験の終了後にその記録を作成して、これからの教育実践に生かしていくことをも目標とする。

【課題の概要】

○オリエンテーション課題

オリエンテーション前に『介護等体験ガイドブック』を熟読し、介護等体験を行うにあたっての考えをレポートすること。

○面接授業課題

介護等体験を踏まえて『介護等体験ガイドブック』のなかの日記部分に記録し、介護等体験終了レポートと共に提出すること。

【授業計画】

○オリエンテーション

『介護等体験ガイドブック』を熟読し、介護等体験の理念や在り方、社会福祉の意義などを考え、これらをレポートにまとめてオリエンテーション時に提出すること。

○面接授業

各社会福祉協議会及び教育委員会の定める手続きに従い、原則的には特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間の合計7日間の介護等体験を行う。実際の日程や内容などは、学校や施設により異なる。

この介護等体験にあたっては毎日の日記をつけ、記録を作成すること。

【成績評価の方法】

提出されたレポート、オリエンテーションの出席状況、介護等体験の内容と記録を合わせて採点する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

教職課程（別表第1適用の中学1種〔美術〕）に登録していること。

○備考

2年次以降にオリエンテーションを受け、翌年度に介護等体験を行う。オリエンテーション受講年度と介護等体験受講年度に履修登録が必要。

【教材等】

○教科書

なし

○学習指導書

なし

※『介護等体験ガイドブック』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程）

【その他】

地域ごとに定められた手続きに従い、各種の調整など学生の責任において行うことが多い。また実施日程は受入施設等の予定にあわせることになる。そ

の他、定められたルールや条件を満たした場合のみ実施が可能となるので、十分な自覚をもって臨む必要がある。このため、月刊誌『武蔵美通信』などに掲載する情報を十分に読んで準備をする必要がある。